

Microsoft Script Editor を使用して、DIAdem ユーザダイアログボックス (SUD) と DIAdem データプラグインをデバッグする

一般情報

Microsoft Script Editor を使用して、DIAdem ユーザダイアログボックスと DIAdem データプラグインをデバッグできます。このドキュメントでは、Microsoft Script Editor を使用する際のコンピュータの設定について説明します。

スクリプトをデバッグするには、スクリプトを非暗号化する必要があります。このため、ファイル名の拡張子が .Suc のユーザダイアログボックスはデバッグできません。

メモ:

DIAdem ユーザダイアログボックス (SUD) および DIAdem データプラグインをデバッグする機能はサポートされていません。

警告:

DIAdem ユーザダイアログボックスと DIAdem データプラグインをデバッグするには、Windows レジストリの変更が必要な場合があります。Windows レジストリを変更する場合は、経験のあるユーザのみが実行することが必要です。エラーが発生することで、システムが不安定になる可能性があります。

必要条件

デバッグを行うには、**DIAdem** バージョン 9.1 以降、**Microsoft Windows スクリプト**、および適切な VBS スクリプトデバッガが必要です。

Microsoft Development Environment (バージョン 7.0 以降) から **Microsoft Script Editor (バージョン 10 以降)** を VBS スクリプトデバッガとして使用することを推奨します。VBA がサポートされている場合、通常、Microsoft はこれらのコ

コンポーネントを Microsoft Office 製品と一緒にインストールします。コンピュータ上に存在しない場合は、この機能を後で追加できます。詳細については、Microsoft Office 製品のヘルプセクションを参照してください。

このドキュメントのすべての画像および説明は、**Microsoft Script Editor 10 (Microsoft Development Environment 7.0)** を使用して作成されています。他のバージョンでは異なる場合があります。

ヒント:

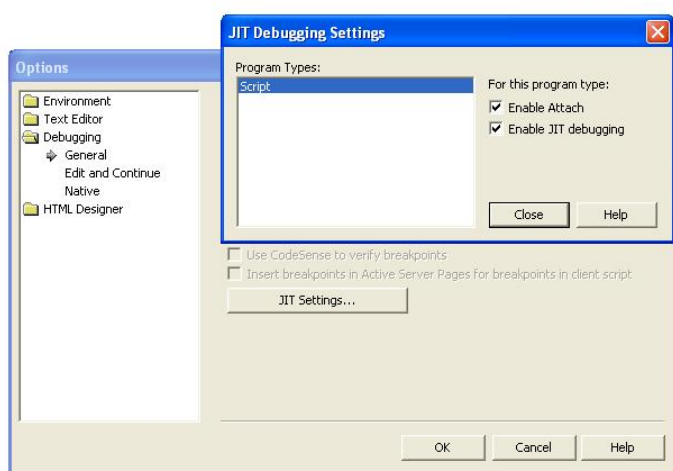
Microsoft Word または他の Office アプリケーションから Microsoft Script Debugger を起動して、Microsoft Development Environment が正しくインストールされているかどうかを確認します。不足しているコンポーネントを自動的にインストールできます。

ヒント:

Microsoft Script Editor は、ハードディスクの MSE.exe または MSE7.exe の下にあります。

設定

Microsoft Script Editor で Just-In-Time (JIT) デバッグを有効化する



スクリプトをデバッグするには、最初に JIT デバッグをアクティブ化する必要があります。**ツール→オプション**を選択し、**アタッチを有効にする**および **JIT デバッグを有効にする**に設定して、Microsoft Script Editor で JIT デバッグを有効にします。

システム全体用に VBS デバッグを有効化する

Microsoft VBScript バージョン 5.1 以降では、この機能は有効にされません。詳細については、<http://support.microsoft.com/default.aspx?scid=kb;EN-US;252895> を参照してください。

この機能を有効にするには、Windows レジストリを確認し、新規キーを作成する必要がある場合があります。

JITDebug キーは、Windows レジストリで以下のいずれかの場所にあります。

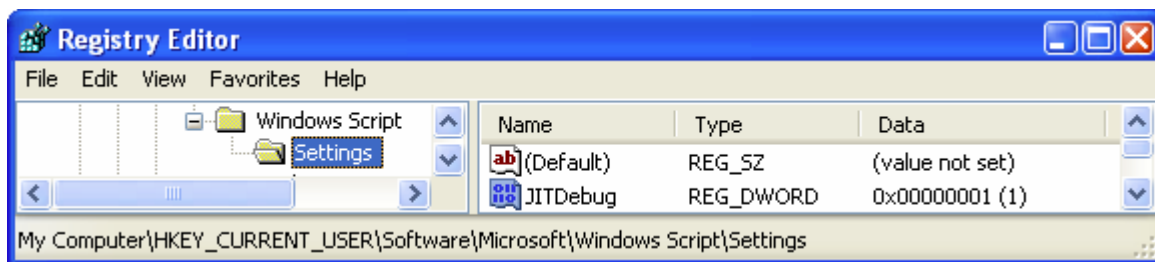
HKEY_CURRENT_USER¥Software¥Microsoft¥Windows Script¥Settings

または

HKEY_USERS¥.DEFAULT¥Software¥Microsoft¥Windows Script¥Settings

Microsoft レジストリエディタの「Regedit.exe」を起動して Windows レジストリを変更するには、Windows で**スタート→実行**を選択して Regedit.exe と入力し、**OK** をクリックします。

JITDebug キーは DWORD エントリです。値が 1 の場合、JIT は有効になります。値が 0 の場合、JIT は無効になります。値が 1 であることを確認してください。存在しない場合は、手動でパスとキーを生成します。



メモ:

この Windows レジストリでの変更は、システム全体の設定です。たとえば、Microsoft Internet Explorer など他のプログラムでスクリプトエラーが発生した場合は、クエリが自動的にプログラムをデバッグするかどうかを確認します。JITDebug の値を 0 にリセットして、この機能を無効にします。

ヒント:

スイッチをリセットするたびに Windows レジストリを開きたくない場合は、キーをエクスポートできます。レジストリエントリのエクスポート方法については、Microsoft Windows レジストリエディタのヘルプセクションを参照してください。最初にキーに値 0 をエクスポートした後、キーに値 1 をエクスポートします。ファイルをダブルクリックして、この機能を有効または無効にします。

デバッグのオプション

ブレークポイントを定義する

Stop コマンドを使用して、特定のポイントでスクリプトを中断します。スクリプトエディタが自動的に開き、この時点からスクリプトをデバッグできます。

例:

```
Sub Foo()  
    Dim i  
    Stop  
    i = 1+1  
End Sub
```

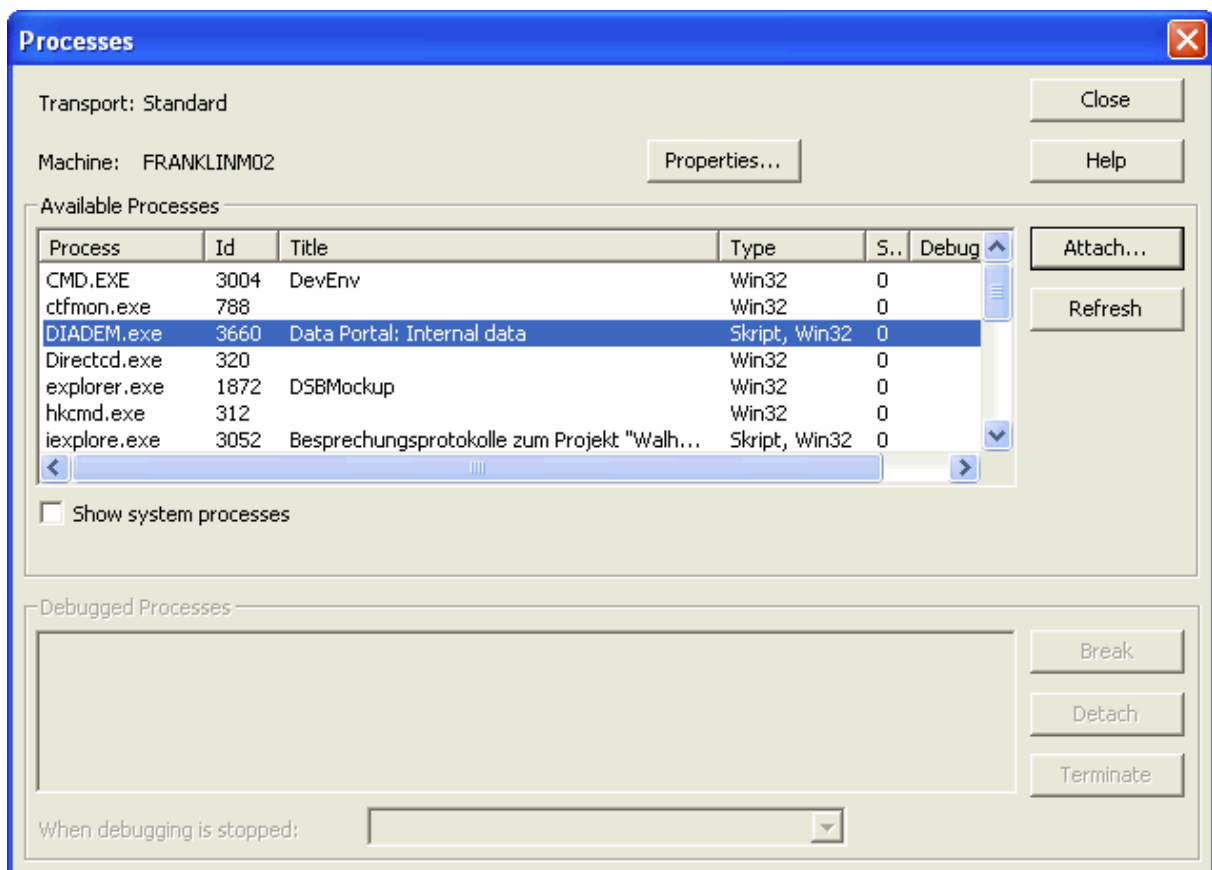
メモ: **Stop** コマンドは、システム全体で VBS デバッグが有効の場合にのみ実行されます。

メモ:

コードをお客様に伝える前に、すべての「停止」手順を削除します。

アクティブスクリプトをデバッグする

Microsoft Script Editor を起動し、**デバッグ→プロセス**を選択します。以下のダイアログボックスが表示されます:



メモ:

プロセスダイアログボックスを開くには、エクスプローラで Microsoft Script Editor を起動する必要があります。Microsoft Script Editor を Microsoft Office 製品で起動する場合は、実行中のプロセスにプロセスを追加するオプションが使用できない可能性があります。

プロセスダイアログボックスに、有効なプロセスが表示されます。**DIAdem.exe** 行で**タイプ**列に「Win32」と表示されている場合は、プロセスに追加できません。この場合は、上のセクションで設定を確認してください。

DIAdem.exe 行で**タイプ**列に「Win32, Script」と表示されている場合は、「追加」ボタンをクリックして表示されたダイアログボックスで**スクリプト**を選択し、**OK** をクリックします。すべてのダイアログボックスを閉じます。

Microsoft Script Editor は、DIAdem をアクティブドキュメントとして表示します。デバッグツールバーを使用して、アクティブドキュメントが含まれているウィンドウを有効にします。

ユーザダイアログボックスまたはデータプラグインから DIAdem でスクリプトを実行する場合、このダイアログボックスまたはデータプラグインは、アクティブドキュメントを表示するウィンドウにアクティブドキュメントとして表示されます。

メモ:

Microsoft Script Editor は、DIAdem ユーザダイアログボックスまたは DIAdem データプラグインのみを表示します。その他すべての DIAdem スクリプトは、内部の DIAdem デバッガのみでデバッグできます。アクティブドキュメントをダブルクリックすると、エディタはアクティブドキュメントのソースコードを表示します。ブレークポイントを設定できるようになりました。

エラー発生時にデバッグする

コンピュータで JIT がアクティブ化されている場合は、スクリプトでエラーが発生するとダイアログボックスが自動的に開きます。このダイアログボックスで Microsoft Script Editor を選択できます。

DBM コマンドを使用する

デバッグウィンドウにテキストを出力するには、**DBM** コマンドを使用します。

DIAdem 2014 では、このコマンドは DIAdem スクリプト、データプラグインスクリプト、およびダイアログボックスのスクリプトで使用できます。デバッガメッセージを確認するには、DebugView (<https://technet.microsoft.com/ja-jp/sysinternals/bb896647.aspx>) などの適切なプログラムが必要です。

例:

```
Sub Foo(InputPar)
    Call DBM("Input parameter: " & InputPar)
End Sub
```